

# 調査・研究報告

## V 調査・研究報告

調査記録 1

### 七飯町内のザゼンソウ群生地について

七飯町歴史館 学芸員 山田 央

#### はじめに

2007年4月下旬だったと思う。「七飯町飯田町にザゼンソウの大群生地があるので、一度一緒に見てほしい。」と、当歴史館友の会会員の干場雅子氏にお話をいただいた。干場氏によると、その群生地は北海道新幹線建設計画地に該当しており、このままでは貴重なザゼンソウ群生地が消失しかねないので、保全の要望をしたいと考えてのことであった。本稿は、干場氏の提言により始まった範囲確認から移植・定着まで足掛け3年に渡る群生地の経過記録について簡単に記したい。

#### ザゼンソウについて

ザゼンソウ（座禅草）は、サトイモ科ザゼンソウ属、学名 *Symplocarpus foetidus*、英名 Skunk cabbage と呼ばれる種で、主に湿地帯に生える多年草である。日本の中では宮城県や栃木県などで絶滅保護対象（Red Date Book 種）にランクされており、土地開発の影響によってその生息地が減少していると言われる。現在のところ北海道の絶滅保護対象にはまだランクされていないが、今後その生息地が減少していくことが想像される。七飯町周辺では、大沼地区や函館市桔梗町などでも見ることができるが、それらは局地的で株数も決して多いとはいえない。

この種は開花する際に肉穂花序が発熱する特徴をもち、それにより周囲の雪を溶かし、初春の少ない時期でも昆虫を引き寄せ、受粉の確率を高くしていると考えられる。また、発熱時に悪臭を放ち、訪花昆虫をおびき寄せているともいわれる。そのため、英名でスカンク・キャベツと呼ばれる。

#### 群生地の詳細

ザゼンソウの群生地は七飯町飯田町にある。ここは、東側に流れる久根別川と、西側を走るコンクリートで護岸された水田用排水路（新川排水路）にはさまれた場所となっており、現在は一帯がヨシ原となっている。しかし、踏査していると所々に人工的な水路の様なものが方形区画に走っていることが確認でき、おそらくこの場所が、過去に水田として活用されていたと想像できる。この水路は素掘りに近い状態であるため、適度な水分が周囲に浸透しザゼンソウが生息するのに必要な湿地帯を形成できたものと思われる。

ザゼンソウは、この水路周辺を挟んだ両側に分布しており、それが約6haの広い範囲の中に、帯状に形成されている。現地踏査では、ヨシに覆われて個体数をすべて把握できるものではなかったが、視認するだけでも、200個体を有に越えていた。当該地区は、七飯町の中心部から車で3分程の位置にあることから、立地的・面積的に考えても貴重であると思われる。

#### 調査経過

2007年5月11日（金） 範囲確認調査 調査者 山田 央・斉藤宏房

七飯町歴史館友の会会員、干場雅子氏の説明をもとに職員で現地確認。残念ながら開花期を過ぎていたため、範囲の分布を確認するにとどまった。この時、素掘りの水路を確認し、特にその周囲にザゼンソウが多く生息していると判断する。生息分布としては、新川排水路側に多く認められ、久根別川近くでは1株を確認しただけであった。

後に、七飯町役場新幹線推進課、柴田憲氏に工事予定範囲と工程計画を教授していただき、ザゼンソウ群生地の一部が範囲に該当していること、2007年度にすぐその場所が破壊される状況ではないことを干場氏に報告する。来春の開花時にもう一度、干場氏と現地での詳細確認をすることを約束。役場新幹線推進課においても、保護してほしいという要望が寄せられたので、前向きに検討し、7月23日・24日に現地調査を実施。明確に範囲を確定するに至らなかったため、来春に再調査を行うこととし、さらにザゼンソウが日差しに弱いことを考慮し、鉄道・運輸機構北海道新幹線建設局を通じ、地権者に対し樹木の伐採を暫く待つよう打診する。

2008年4月4日(金) 現状確認調査 調査者 山田 央・干場雅子

干場氏と共に現状確認を行う。昨年同様、新川排水路側にザゼンソウが多く認められた。また、開花時期であったため、昨年確認していたよりも株数が多く認められ、想像よりも群生が密であることがわかった。開花写真と現状写真をおさめる。この時、函館自然観察会から町にザゼンソウ群生地の保存・保全に関して要望書があげられていることを知る。今後は、保全に対し役場が中心になることと思ひ、当館としては、昨年同様に現状記録に主眼をおいて調査することにする。

同年4月15日・16日にかけて、鉄道・運輸機構北海道新幹線建設局による本格的なザゼンソウ群生地の調査が行われた。これにより1,452株が確認され、新幹線事業による町道付替事業による消失が少なからずあっても、ザゼンソウの生育・存続に多大な影響は与えないだろうと想像された。しかしながら、要望書の声にさらに応えるため機構側は、9月に町道付替範囲に植生しているザゼンソウを久根別川近くのエリアへ移植し、その数は、当初の調査数を超える約360株にもものぼった。これにより、従来の計画で失われるザゼンソウの株数を大幅に残せることになった。

2009年4月3日(金) 移植後確認調査 調査者 山田 央・岩井利公

昨年、移植が実施されたことを受け、移植後の状況と現存している部分の状況確認のため、職員で調査を行った。昨年まで、新川排水路側に密生していた場所に若干の発芽を確認したが、その数は、移植前に比べ大幅に少なく、逆に、移植された久根別川付近に多く発芽したザゼンソウを確認。なお、移植地には機構側が設置したザゼンソウ移植事業の顛末などが記された表示板が掲示されていた。補足となるが、機構側もザゼンソウが残っていたことを確認しており、同年9月にそれらについても移植を実施した。

まだ、何年か継続して群生地の経過を観察していかなくてはならないと思ひながらも、無事にザゼンソウが移植され、定着したことに安堵した。

## おわりに

私たちの住む七飯町に、これほど広大なザゼンソウ群生地があることを知る人は少ないと思う。そして、何よりも町民をはじめ自然観察団体がその重要性を訴え、開発者側もその声に応える形で、開発を進めながらも保全に対し最善をつくした事実を後世に残したくてここに記した。今回の例に限らず、これから開発が推進されるころでは、必ず自然保護という問題が起きてくるだろう。その時、どちらを優先するのかではなく、どのように共生させるかを考えていくと、街づくりの将来が見えてくるのかもしれない。

当館では経過記録を残すことしかできない無力さを反省しつつ、七飯町のザゼンソウ群生地が残されたのは、七飯町民と函館自然観察会の自然保護への熱意とそれを真摯に受け止めた鉄道・運輸機構北海道新幹線建設局の英断、そして調整にあたった七飯町役場新幹線推進課の助力など、それぞれ、違った立場の方々が意見を交わし、良い方向へ進めたからだを考える。改めて、すべての関係者に敬意を表しこの場を借りて感謝申し上げたい。

この謝意は、歴史を記録する当館の立場だけではなく、貴重なザゼンソウ群生地を託された未来の町民の声でもある。



2008 年度確認のザゼンソウ群落地（移設前）



ザゼンソウ近景（移設前）



ヨシ原に点在するザゼンソウ（移設前）



移設前の群生地近景（保護柵で護られている）



ザゼンソウ近景（移設後、新たに発芽したもの）



確認した水路跡（周辺にザゼンソウが見られる）